

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地					
岡山理科大学専門 学校	昭和50年4月14日	村岡 正	〒700-0003 岡山県岡山市北区半田町8-3 (電話) 086-228-0383					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地					
学校法人加計学園	昭和36年9月20日	理事長 加計 晃太郎	〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1 (電話) 086-252-3161					
目的	水生動植物の飼育・繁殖・技術開発などの知識と技術を身に付け、水族館、専門店、養殖場、水産会社、総合ペットショップ、環境調査会社、水槽製作会社などへ就職、活躍できる人材育成を目的とする。							
分野	課程名	学科名		専門士		高度専門士		
文化・教養	文化・教養 専門課程	アクアリウム学科		平成7年 文部省告示第7号		—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総 単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	92単位	44単位	6単位	44単位	—	—	—
		単位						
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数		総教員数	
80 人		73 人		4 人	7 人		11 人	
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績は100点を満点とし、60点以上を合格とする。評価は100～80点を優、79～70点を良、69～60点を可とし、59～0点を不可とする。			
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月20日～8月31日 ■冬季:12月21日～1月9日 ■学年末:3月31日			卒業・進級 条件	本校に2年以上在学し本校が定めた授業科目を履修し、定められた単位数を修得した者に対して校長は総長と協議の上、卒業と認定する。 また学科に定める規定単位数を修得した者に対して進級と認める。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 三者面談、電話・メール連絡			課外活動	■課外活動の種類 海洋実習、河川実習 ■サークル活動: 有			

就職等の 状況	■主な就職先、業界等 アクアショップ、ペットショップ、 養殖場、水族館、水産会社他	主な資格・ 検定等	潜水士 アクアリウムコーディネーター スキューバダイビングCカード 観賞魚飼育管理士3級 愛玩動物飼育管理士2級 サービス接客検定
	■就職率^{※1} : 90 % ■卒業者に占める就職者の割合^{※2} : 58 % ■その他 進学率30% (平成 28 年度卒業者に関する 平成29年3月31日 時点の情報)		
中途退学 の現状	■中途退学者 8 名 平成28年4月1日 在学者 76 名 (平成28年4月1日 入学者を含む) 平成29年3月31日 在学者 68 名 (平成29年3月31日 卒業者を含む)	■中退率 10.5 %	
	■中途退学の主な理由 経済的理由、仕事の都合		
	■中退防止のための取組 チューター制によるカウンセリング、専門のカウンセラーの常駐		
ホームページ			

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。
 ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したもとする。
 ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。
 ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。
 (「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。
 全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。
 「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

国家試験受験資格要件を満たす必須科目他、最新の知識・技術の修得に応じる科目について、業界と学術の双方からの要人を編集委員に迎え入れて、カリキュラムの構成に配慮している。また、専門職業人としてかつ、関係業務従事にも対応できる人材の養成を目指し、業界・企業の要望を真摯に取り入れるべく、業界の第一線で活躍し、専門に造詣深い講師を招聘することに努めている。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年9月30日現在

名前	所属
萱野 泰久	岡山県農林水産総合センター 水産研究所 所長
坂口 誠	市立玉野海洋博物館 館長
村岡 正	岡山理科大学専門学校 校長
湯浅 康生	岡山理科大学専門学校 教務課長
津村 誠一	岡山理科大学専門学校 アクアリウム学科長
富澤 直人	岡山理科大学専門学校 動物系総合学科研究科長

(開催日時)

第1回 平成28年 4月27日 16:00～

第2回 平成28年11月 2日 16:00～

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

教育交流協定先には、岡山市中央卸売市場、玉野市立玉野海洋博物館、池田動物園などがあり、それらの施設での演習等をカリキュラムに組み込んでいる。また校外実習として、年2回国内海洋研修(鹿児島、沖縄県等)と2年に1回の海外研修を実施。いずれも当該施設担当職員などの指導・教授を仰ぎ、最前線のアクアリウム体験に成功するように努めている。

科目名	科目概要	連携企業等
魚類繁殖実習Ⅱ	観賞魚・食用魚あるいは淡水魚・海水魚など、数多くの魚類が人の手によって繁殖されている。これらの技術を修得するための基礎理論の理解を深めることを目標とする。	岡山県農林水産総合センター 水産研究所
アクアテクノロジー実習A	水界に生息する生物は、その環境変化のほとんどを水を介して受け入れている。したがって、水質が個々の生物に与える影響や好適範囲に関する知識や水質の指標に関する知識が必要となる。これらの知識を習得させる。	岡山市環境学習センター「めだかの学校」 岡山市水道局 三野浄水場 鹿児島県瀬戸内町
水槽製作実習Ⅰ	水槽製作技術は飼育テクニックとならば重要な技術であり、アクリル、塩ビの接着、溶接など、水槽作りの第一歩を学ぶ。	(株)コバックス関西
インターンシップ実習Ⅰ、Ⅱ	水族館、専門店、養殖場などにインターンとして前期と後期に2週間ずつの実習を行い、実際の仕事と社会体験を通じ、即戦力となる知識と経験を積む。	独立行政法人 水産総合研究センター 玉野市立海洋博物館
魚類繁殖実習Ⅰ	魚類繁殖理論の理解を助け、基礎的な魚類繁殖の技術を身に付ける。	岡山市中央卸売市場

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名前	所属
洗井 健一	一般社団法人 岡山県建築士会会長
春名 章宏	公益社団法人 岡山県獣医師会会長
國近 寛康	公益財団法人 岡山県動物愛護財団事務局長
平尾 智子	一般社団法人 ジャパンクルラブ 中国ブロック協議会会長
山本 拓哉	有限会社 マリンシアター 代表
中塚 利信	同窓会長、有限会社 中塚銘木店 代表
平井 義一	玉野総合医療専門学校 校長
木畑 廣伸	吉備高原学園高等学校 校長
庄 公寿	庄屋電装 株式会社 代表取締役社長

(学校関係者評価結果の公表方法)

<http://www.risen.ac.jp/evaluation.html>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL:<http://www.risen.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 アクアリウム学科) 平成28年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			コンピュータ演習Ⅰ	Window、インターネット、デジタルカメラ、電子メール、およびワープロソフト (Word) の実用的な利用方法を習得し、ビジネスの現場で役立つ情報リテラシーを習得する。	1前	30	2	○			○					
○			コンピュータ演習Ⅱ	表計算ソフトおよびプレゼンテーションソフト (Excel、PowerPoint) の実用的な利用方法を習得しビジネスの現場で役立つ情報リテラシーを習得する。	1後	30	2	○			○					
○			コンピュータ演習Ⅲ	アクアショップのホームページに必要なコンテンツを考えながら、ホームページ作成ソフトを利用してホームページを制作する方法を習得する。	2前	30	2	○			○					
○			キャリアマナーⅠ	『あなたと一緒に働きたい』就職試験までにそう言ってもらえるように、しっかりとビジネスマナー、サービス接遇の基本を学ぶ。気持ちの持ち方ひとつで、表情や行動が変わり、周囲に与える印象も向上する。人に喜んでもらえる対応ができるように、自分を見つめ、知識と教養を身につけていく。(サービス接遇準1級取得を目指す。)	1前	30	2	○			○					
○			キャリアマナーⅡ	自分自身の職業人生やキャリアについて、自ら主体となって構想・設計し、じつげんしていくためにどのように行動すればよいか、セルフワークやチーム学習を通じて気づき学んで行く。	1後	30	2	○			○					
○			RS 特別講義	「建築」「動物」の分野を超えた幅広い学外有識者を招聘し様々な知識教養を身につけ、幅広い視野を養うことを目的とする	2後	30	2	○			○					
○			魚類学	魚類はほとんどの水域で生息しており、歴史的には5億年前から発生したとされており、その間様々に進化したため、その形態、生態、分布、分類等は多様である。魚類学では魚類の多様性の中、進化、体型、体表、骨格、内分泌等の総論について講義する。	1前	30	2	○			○					
○			水産動物学	水界には多種多様な動物が分布しており、それぞれに生活様式を持っている。ここでは人類との関わりにおいて有用なもの、有害なもの、さらには飼育が可能なものについての知識を習得させる。	1前	30	2	○			○					
○			魚類生態学	地球上には、きわめて多種の魚類が生息し、それぞれの生活様式を持っている。また、それぞれの種は固体間、環境あるいは種間で関与し合いながら、その生態系を保っている。これらの意味を理解し飼育上の視点となるよう講義する。	1後	30	2	○			○					
○			水界生態学	飼育水槽では、空間も種の組み合わせも限られた条件で飼育していて、そのために生じる過不足は人為的に制御している。一方、自然界では他生物や環境の助けを借りながら、健全に生息している。そこで、水界の生物が他生物や環境との間にどのような関わりをもつかを理解し飼育上の視点となるよう講義する。	1後	30	2	○			○					

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 アクアリウム学科) 平成28年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			魚類栄養学	魚類を飼育する上で、餌料の良否が重要な要素であることは言うまでもないが、ここでは、魚類と餌料の関係を栄養的側面から学習する。	2後	30	2	○			○			○		
○			海洋動物疾病学	近年、各地で養魚が発達しその生産量も地域も拡大していて、それに伴って自家汚染とも考えられる病原生物の問題が深刻化している。同じ海から採集される飼育生物にとっても、疾病は避けて通れない問題であり、その種類や対処方法の知識を習得させる。	1前	30	2	○			○				○	
○			観賞魚飼育理論	魚類等の飼育生物を長期間飼育する為に、どのような用具や技術、あるいは考え方が必要かを、観賞魚飼育実習とフィードバックを計りながら講義する。さらには、最新の飼育設備の理論や技術についても講義する。	1前	30	2	○			○				○	
○			水生哺乳類飼育理論	水界に生息する哺乳類は生態系の高次の地位を占めていて、大型の物も多い。現在、イルカ・クジラ類、鯨類、海牛類などが飼育されている。これらの実例を挙げながら飼育の知識を修得する。	2後	30	2	○			○	○			○	
○			魚類繁殖理論	観賞魚・食用魚あるいは淡水魚・海水魚など、数多くの魚類が人の手によって繁殖されている。これらの技術を修得するための基礎理論の理解を深めることを目標とする。	1前	30	2	○			○	○	○			
○			海洋学	飼育対象となる生物の多くは海洋に由来しており、まさに海洋の一部として生息している。即ち、これらの生物と海洋の変化は深く関わっていて、海洋を飼育容器として捉える視点は水生生物飼育にとって重要である。ここでは、海洋の構成や変化について修得し水生生物飼育の基礎知識とする。	1前	30	2	○			○				○	
○			環境水質学	水界に生息する生物は、その環境変化のほとんどを水を介して受け入れている。したがって、水質が個々の生物に与える影響や好適範囲に関する知識や水質の指標に関する知識が必要となる。これらの知識を習得させる	1前	30	2	○			○	○			○	
○			環境保護論	様々な環境問題の本質を理解し、環境保護、環境保全の重要性を学び、持続的発展が可能な社会を実現するために各自がどのような行動をとればよいかを、自然科学、社会・経済活動等の観点から指導し、自ら考え判断する力を習得させる。	2後	30	2	○			○				○	
○			水槽理論A	ますます発展する水槽設備、周辺器具についての用途と機能を学ぶ。また、水槽の材質、強度及び選定方法と各周辺機器におけるメンテナンス方法の習得を行う。	2後	30	2	○			○				○	
			水槽設計論	水生生物を長期飼育する為の水槽設備、周辺機器を理解し、水槽の基本設計、システム構築をするために熱量計算、配管抵抗、ポンプの能力等を学ぶ。	1前	30	2	○			○				○	
○			水槽理論B	活魚、観賞魚水槽の基本設計及び電気、配管施工技術をマスターしアクアリウム製作のエキスパートとして幅広い知識と見識を学ぶ。水槽容量(用途)にマッチした冷凍機・ポンプ等周辺器具の最適なセッティングをシミュレーションし、水槽製作における基本設計を学ぶ。	2後	30	2	○			○				○	

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 アクアリウム学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アクアテクノロジー理論Ⅰ	亜熱帯域における珊瑚礁復活をめざし、造礁サンゴの仕組みと役割及び生活史について理解を深める。(無脊椎動物の学名・和名のマスター) また、希少日本産淡水魚の法的規制と商取引に関わる生物の知識を身につける。	1後	30	2	○			○	○			
○			アクアテクノロジー理論Ⅱ	従来のろ過システムを根本的に覆したナチュラル方式理論を解説する。自然の恵みである石、珊瑚砂等の堆積物には無数の微小生物が存在し、これらの働きによる複合的かつ連鎖的な結びつきにより水質の浄化がなされていることに気づき、益々進歩するアクアリウムテクノロジーに対する理解を深める。	2前	30	2	○			○	○			
○			卒業研究	1年次の授業、実習を通じ、チームまたは個人でアクアリウム学科に関係するテーマを決め、問題点の整理、仮説、実験、調査、分析から結果と考察を行い、論文作成、口頭発表を行い、実践的な技術開発研究を行う。	1前	300	2	○			○		○		
○			最新技術情報研究A・B	各専門分野の最新技術について学ぶ。	2前後	60	4	○			○	○	○		
		○	動物飼養管理学Ⅰ	哺乳類、鳥類、爬虫類などを含む動物の適正飼育およびペットビジネス、動物愛護の普及に関する知識、動物関係法令の習得を目標とし、同時に日本愛玩動物飼養管理士(2級)資格得を目標とする。	2前後	60	4	○			○			○	
○			アクアテクノロジー実習A	従来のろ過システムにとらわれないナチュラル方式を志向する。自然が本来、有する水質浄化能力を最大限生かし、この第二の地球といえるタンクを生態系の完結したシステムを構築し魚類、植物、無脊椎動物が住める環境そのものを再現する。	1前	30	1				○	○		○	
○			アクアテクノロジー実習B	アクアテクノロジー全般に関する未解明なテーマに取り組み、飼育技術の確立等に挑戦する。なお、取り進めにあたっては実験計画法など効果的手法を取り入れる中で学生個々人が持つ才能を最大限引き出す。(2月初旬に研究発表会を実施する)	2前	30	1				○	○		○	
○			観賞魚飼育実習A	観賞魚を長期飼育するための魚病対策、給餌方法、定常的なメンテナンス方法の習得、及び、各テーマ毎に分けた、生体別飼育方法の理解と実践を行う。	1前	30	2				○	○	○		○
○			観賞魚飼育実習B	観賞魚を長期飼育するための魚病対策、給餌方法、定常的なメンテナンス方法の習得、及び、各テーマ毎に分けた、生体別飼育方法の理解と実践を行う。また、飼育が難しいとされる飼育困難種に挑戦し幅広い実務経験を積む。	1後	30	1				○	○			○

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 アクアリウム学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			水槽管理実習 A	①ペルリ水槽（5t）における定常的なメンテナンスと最新装置維持管理。 ②水質分析方法の習得と飼育記録の管理。 ③学内水槽設備に飼育中の収容生物における水質管理と給餌方法を学ぶ。 ④水質データにおける評価方法と対応。	1前	90	3			○	○	○	○		
○			水槽管理実習 B	水槽管理実習 A で学んだ内容を基礎に、不定常作業の実施と習得を行う。また、学生自ら学内水槽設備を自主的管理が出来るよう、指導を行う。	1後	90	3			○	○	○	○		
○			魚類繁殖実習 I	魚類繁殖理論の理解を助け、基礎的な魚類繁殖の技術を身に付ける。	2後	150	5			○	○		○		○
○			魚類繁殖実習 II	種苗生産で重要な部分を占める、初期餌料と親魚についての技術を身に付ける。	2前	150	5			○	○	○	○		○
○			水槽製作実習 I	水槽製作技術は飼育テクニックとならぶ重要な技術であり、アクリル、塩ビの接着、溶接など、水槽作りの第一歩を学ぶ。	1後	60	2			○	○			○	○
○			水槽製作実習 II	水槽理論（実習）I での知識及び技術を生かしオリジナルの水槽制作	2前	60	2			○	○			○	○
○			アクアアート実習 I	ネイチャーアクアリウム業界における仕組みと実状を学び、有効なマーケティング方式とネイチャーアクアリウムを幅広い視野に捉え、それぞれの分野における特性を理解し、より有効的なシステム、ディスプレイ、アイデアを創造する。	1後	60	2			○	○	○	○		
○			アクアアート実習 II	熱帯淡水魚、アクアリウムレイアウトの撮影技術修得と、その写真を生かしたポップ、資料、刊行物の製作を学び、ハイレベルでマルチ的な技術を持つアクアリウムアドバイザーを目指す。	2前	60	2			○	○	○	○		
○			多目的実習 I	観賞魚（クマノミ類）の親魚管理、仔魚飼育、中間育成、選別出荷、水槽管理等を3名/チームで技術員の指導のもと、実際の量産現場で総合的な実習を行うとともに、コミュニケーション力を養う。	2前	120	4			○	○	○	○		○
○			多目的実習 II		2後	120	4			○	○	○	○		○
○			インターンシップ実習	水族館、専門店、養殖場などにインターンとして前期と後期に2週間ずつの実習を行い、実際の仕事と社会体験を通じ、即戦力となる知識と経験を積む	1後 2後	60	4			○	○	○	○		○

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 アクアリウム学科) 平成28年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
合計															42 科目	単位時間(92 単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各科目において学習評価と出席時数による認定によって取得された総単位数が81単位以上であること(全科目必修)。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。